

## <テーマ> 電力・ガス小売全面自由化後の状況と対応策 ～都市ガス・LPガス事業者へのアンケート調査～

問) 電力・ガス全面自由化に、どう対応すべきか (回答者の自由意見)

### ●都市ガス事業者編

- ・自由化により、価格面だけでなく、保安面の維持も重要。お客様にとって安心してガスをご使用頂くことが責務と考え、サービスを提供していくようにしていかななくてはならない。
- ・一部委員及びオブザーバーである電力会社の「保安面を新導管事業者(現在の都市ガス会社)が一義的に担う」という主張は到底受け入れられない。ガス事業で最重要案件である保安面を都市ガス事業者が押し付け、フリーハンドでガス小売事業へ参入させることは、ガスの安全性の低下を招く要因に他ならない。小売事業に参入するならば、保安の確保も含め参入させるべき。
- ・ガス事業の保安の行方で、内容は変わってくるように思う。
- ・他業者の参入後、保安の確保は責任分界の問題がある。
- ・保安意識の低い事業者が参入できる制度であるべきではない。ガスを供給・販売しているにも関わらず、保安に対する責任を免れることには大いに違和感を覚える。  
保安コスト低減や保安水準維持の観点から、導管事業者が一義的に担うべき、また参入障壁とすべきではない、との意見があるが、ガス事業の特異性を勘案すると「保安体制の確保」は最低限の参入条件であるべき。
- ・自由化になるとどのような方向へ進んでいくか現時点では分からない。政府または使用者(需要家)の求めているのは環境、省エネ、エネルギーの低廉化、利用形態の多様化、有事における強靱性等そして、電気、ガスその他のエネルギーのお互いの領域に参入しあうことで市場を活性化—などだと思う。しかし、色々な分野へ参入するのはいいが、まず保安の確保が重要。対応できる技術、知識がなければどうにもならない。必要な資格の取得そして人材の育成が必須。
- ・当社は普及率25%と低いため、都市ガス普及率UPを最重要課題とし、足元を固める必要もあるが、自由化に対してどのように対応していくか、正直わかりかねる。当社グループで一体となり、チャレンジしていく。
- ・電源、原料調達能力が無ければ事業拡大は難しい。大手同士の競争になるのではないかと。  
ガス事業者が電気の小売りに参入することは比較的容易で、ガス事業者以外の事業者が、ガスの小売りに参入する場合には、保安を確保する面で電気に比べ難しくリスクが高い。新規参入は限定的になるのではないかと。  
一般ガス・簡ガス事業者間においては、業務内容が同じ部分が多くて、相互参入があるのではないかとと思う。
- ・小売事業者に保安業務を課すことは、参入の障壁ではなく、当然の義務と解すべき。参入者の具備すべき当然の要件。
- ・ガス料金原価の内訳は大半が原料費であり、原料費の輸入価格を下げるのが直接的にガス料金を引下げる有効な手段である。中小事業者は原料調達が自由に出来ない中、必要な営業費をコストオンする形で行政の規制の下、料金を決定してきた。保安維持や安定供給が求められ、その負担も大きい。国際的に見て日本のガス料金が割高であるのも、ガス事業者が置かれた事業環境を大きく反映している。果して、自由化の下、過度な競争が行われる環境を作るとは、消費者の求めるところに合致するかどうか。その弊害があり得ることも含め、説明で本当にコンセンサスが得られるかどうか。

- ・ 国からは、まだ明確な時期等は発表されていないが、保安面を考慮して欲しい。価格と保安のバランスを考慮願いたい。
- ・ 当社は、導管が近隣のガス会社と繋がっていないため、自由化になってからどの様に変化があるかは、予測がつかない。導管が繋がっている会社は自由化の影響は大きくあると思う。
- ・ 地方公営事業の運営は、自由化に伴う競争激化によって収益の低下が懸念される。料金や予算等について議会の議決が必要であるなど、様々な制約の中で対応できるかどうか不安。
- ・ 1. 世界一の高齢化社会を迎えるにあたり、欧米志向のガス自由化論一辺倒で良いのか、電気とガスでは、取り扱う商品はもちろんのこと、供給形態や市場、今日までの発展の歴史なども全く異なるのに、「電気をやるからガスも」で本当に良いのか大いに疑問がある。拙速、かつ安易に結論を出さず、これまで「世界一安全なガス」を守ってきた実績を基に、日本独自のガス市場に係るビジョンを検討すべき。
- ・ 2. ガスは上流から下流に一方通行だが、ガス料金低廉化に最も効果的なのは上流側の改革であると思う。①国としてLNGをできる限り安く仕入れる方策②国内のパイプライン網の整備で卸市場競争の活性化の方法③小売の料金水準の研究をもとに、必要であれば小売自由化の在り方(但し、「コスト」と「保安維持」とのバランスが重要)の順に検討を進めるべき。
- ・ 地方ガス事業者(ガス供給者)は地域住民と密接な関係を長い取引の中で構築し、保安と一体化して事業展開をしている。ガス全面自由化に向け、保安面を含めコストをいかに抑え、更なるお客さまサービス提供が出来るよう制度設計していく必要がある。
- ・ 自由化が先行し、保安が後退するのではないか。  
多業種からの参入により、ガス料金がオプション化するのではないか。  
大口の優良先が大手に切替えられ、小規模事業者の経営を圧迫する。
- ・ 電力は大震災直後から自由化という声が国民全体からおこったが、ガスの全面自由化は果して国民が本当に望んでいるか疑問に思う。  
安全にガスが利用できる現状でも、一般の主婦(女性)の方からは「ガスは怖い」という声を聞く。
- ・ 現有ユーザーを囲い込む「エネルギー・ワンストップ・サービス事業」の確立が急務。